

韓国

追加の景気対策を発表

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

研究員 大嶋 秀雄

E-mail : oshima.hideo@jri.co.jp

消費は持ち直しも、MERS で一時的に減速する懸念

2015年に入って以降、国内消費に持ち直しの兆しがみられる。15年5月の小売売上指数は、前年同月比+3.7%と、前月(同+5.0%)からは減速したものの、底堅く推移した。品目別では、耐久消費財がけん引した(右上図)。

しかし、6月以降の中東呼吸器症候群(MERS)の感染拡大を背景に、足元で景気減速懸念が急速に高まっている。消費者の景気先行きへの見方を示す消費者信頼感指数は99(6月)と前月(105)から急落しており、持ち直しつつあった消費の減速が懸念される。また、外国からの来訪者が急減しており、サービス輸出の落ち込みも予想される。とくに7~8月は外国からの来訪者がもっとも多いシーズンであるため、MERSの収束が遅れると景気への悪影響が大きくなる。

MERSによる景気減速を抑えるため、政府は7月に11.8兆ウォンの補正予算を含む約22兆ウォンの景気対策を打ち出した。補正予算では、景気減速に伴う歳入減の補てん(5.6兆ウォン)

MERS・干ばつ対策や労働者の生活支援のための追加財政支出(6.2兆ウォン)が盛り込まれた。政府は、今回の景気対策が15年の経済成長率を0.3%ポイント押し上げると試算し、+3%台の成長を目指しているが、足元の経済環境を勘案すると目標達成は容易ではないだろう。

14年以降4度目の利下げ

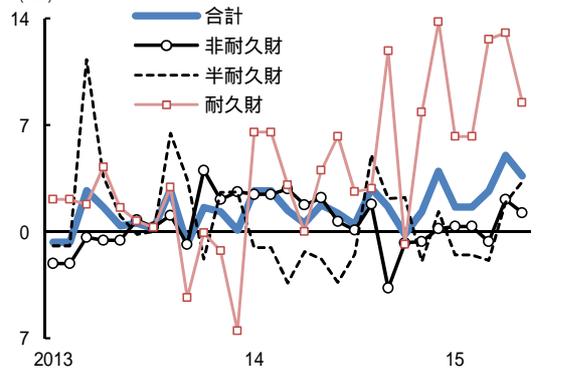
一方、韓国銀行は6月に追加利下げを実施した(右下図)。14年後半からの段階的な利下げにより政策金利は過去最低の1.5%まで低下しており、銀行の平均新規貸出金利も3%台半ばまで下がっている。貸出金利の低下を受けて貸出残高が増加傾向にある。今回の追加利下げで一段の金利低下が予想され、景気底上げ効果が期待される。

ただし、追加利下げの余地も限られつつある。インフレ率は低水準で推移しているものの、金利低下による借入急増で家計債務問題が深刻化しており、債務増大につながる追加利下げは一段と難しくなっている。

日韓関係に改善の兆し

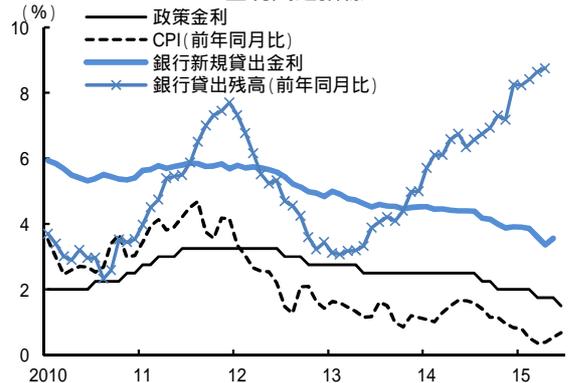
6月22日に日韓国交正常化50周年を迎えた。国交正常化50周年に関連して、韓国の尹外相が来日し、安倍首相や岸田外相と会談を行った。また、両国首脳がそれぞれの大使館主催の記念式典へ出席するなど、両国関係に改善の兆しがみられる。両国の経済交流は深く、日韓関係の改善がビジネス環境の改善などにつながることを期待されるが、現在は対話が始まった段階で具体的な問題解決はなされていない。関係改善が一時的なものにとどまることはないか、今後の動向が注目される。

< 分類別小売売上指数 (前年同月比) >



(注1)旧正月の影響を調整するため、1、2月は平均値。(年/月)
(出所)韓国銀行、統計局

< 金利関連指標 >



(注2)貸出金利・残高は商業銀行および特殊銀行のもの。(年/月)
(出所)韓国銀行、統計局

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。